

平成29年度第1回（被服学・美術デザイン）分野グループ合同会議議事概要  
被服学教育FD/ICT活用研究委員会  
CCC美術デザイングループ運営委員会

- I. 日 時 : 平成29年8月11日（金）13:30～15:30  
II. 場 所 : 私立大学情報教育協会 事務局  
III. 出席者 : 被服学教育FD/ICT活用研究委員会 阿部委員長、潮田委員、小原委員  
CCC美術・デザイングループ運営委員会 井澤委員、宮田委員(スカイプ参加)  
事務局 井端事務局長、森下主幹、中村事務局員

IV. 委員紹介

今年度加わられた潮田委員、スカイプ参加の宮田委員ほか出席委員から自己紹介が行われた。

VI. 報告・検討の概要

1. 事務局より、昨年度報告及び今年度の対話集会開催計画案の進め方について以下の報告説明を行った。

(1) 平成28年度の事業報告

事務局から資料①事業報告書により、昨年度の分野別アクティブ・ラーニング対話集会の開催結果報告を行った。

被服学・美術デザイングループでは、地域連携のアクティブ・ラーニングが進んでいるが、分野連携による多面的な考察はまだ十分ではなく、学修成果の発表評価にはモバイルの使用を認識しておかなければならないことや、教学マネジメントでは他分野との授業連携の仕組みは出来ているが、具体的な連携の内容について深く掘り下げるまでには至っていないことが確認された。

配布資料「参考2」の調査結果では、教員はアクティブ・ラーニングの効果を認めているが、学生は受け身志向であり教員との認識にギャップがあること、「参考3」からは学生にはさまざまな知識や情報を自分で関連付けて学ばせる教育が必要であると言える。

(2) 今年度の事業計画（分野連携対話集会の進め方）

平成28年度の対話集会の結果及び平成28年度に実施した「私立大学教員の授業改善調査」の結果から、アクティブ・ラーニングの取り組みは緒についたばかりであり、大半は「個別授業」での「講義との組み合わせ」による「知識の定着・確認」であることを踏まえ、本年度は以下の視点を中心に分野連携による対話集会を展開することにする。

- ・ ICTを活用した教育改善の在り方の探究  
個別授業における工夫・改善を図るため、学生が身につけるべき学力の3要素の向上・発展に効果的な「教育改善モデル」や、ICTを活用した「教育改善の実践事例」を踏まえてアクティブ・ラーニングの教育・学修方法を探求する。
- ・ 外部評価試験と教育の質保障  
参考1「学修成果の質保障に向けた外部評価モデル」において私情協が提案している口頭試問等によるICTを活用した外部評価試験の必要性や、大学連携コンソーシアムの仕組みについての理解の共有と教育の質保障を確保するアセスメントモデルの実現に向けた議論を展開する。
- ・ 学位プログラムへの転換と授業科目の相互改善に結びつける仕組み  
授業の可視化、学修成果の可視化など教員同士の授業情報共有と、eシラバス、eポートフォリオ活用など授業科目の相互改善に結びつける仕組みについて理解を深める。

(3) 対話集会の進め方

今年度は昨年度より30分増やし、話題提供1時間半、意見交換2時間の3時間半で開催する。

話題提供の候補については、「参考」にある被服学の2つ、美術・デザイン分野の2つの教育改善モデルについての検討及び、資料③にある以下の項目(\*)も参考に本日の合同会議で検討して欲しい。

- \* ICT を活用した「学力の3要素」を高める教育改善モデル
- \* ICT を活用した大人数の双方向授業、事前・事後学修、反転授業、地域連携授業などの実践事例
- \* モバイルを活用したアクティブ・ラーニング
- \* ICT を活用したアクティブ・ラーニング達成度の測定方法
- \* e シラバス、e ポートフォリオなどを活用した授業の可視化、学修成果の可視化
- \* 授業改善をオープンに議論するポータルサイトの活用など

#### (4) 意見交流について

資料③に例えばとして挙げた以下の項目(※)も参考に2件か3件、本日の合同会議で検討して欲しい

- ※ 「学力の3要素」を高める ICT 活用教育又は双方向授業、事前・事後学修、反転授業、地域連携授業の ICT 活用の効果と課題
- ※ ICT による外部評価試験システムの必要性
- ※ 授業科目の相互改善を促進するオープンな議論の必要性と ICT 活用

- ・意見交流の活性化のため、今年度は教員だけでなく職員や必要に応じて学生の参加を検討する。
- ・「ICT による外部評価試験システムの必要性」については、第2回合同会議で検討を行い、意見交流において私情協から説明を行うことを考えている。
- ・活発な意見交流のため参加者全員や学生に発言を求め、参加教員に課題認識をより共有化し、気づきの働きかけを行いたい。

#### (5) スケジュール

第1回合同会議 (8月)

- ・話題提供候補の検討
- ・意見交流のテーマ検討
- ・ICT による外部評価試験システムの必要性の検討
- ・対話集会の開催日時・場所の検討

第2回合同会議 (10月)

- ・開催要項の確定
- ・話題提供者の確定
- ・意見交流のテーマ確定
- ・開催日時・場所の決定
- ・運営シナリオの検討と役割分担

対話集会 (12月)

以上の説明後、被服学分野と美術・デザイン分野それぞれで「教育改善モデル」「実践事例」「話題提供」等について以下の検討がなされた。

## 2. 話題提供候補の検討

検討における主な意見：

- ・受け身志向の学生が多くなったことも感じるが、素直な学生が増えた印象がある。
- ・知識を蓄積した上で応用するディープアクティブラーニングや、学生が自ら必要を感じて学ぶようにならなければならない。基礎が不十分で先に進んでもうまく行かない。

- ・運用中の学生と教員とのeラーニングマネジメントシステムが紹介されたが、長期的目標に対するツールとしては良いが、短期的な授業改善にはLINEやモバイル機能など学生から見て使い勝手の優れたものが良い。

話題提供候補については、「⑤被服学 石原委員」「⑥美術・デザイン 有馬委員」から提出された提案を含めて検討され、下記の話題提供候補が提示された。

被服学の話題提供候補：

- ① LMSを用いた被服関係カリキュラムの横断的展開（椋山女学園大学 石原久代委員）
  - ・材料やデザイン等、教育改善モデルとして領域がかなり横断的に展開されている
- ② アパレルコンテンツの事前事後学修による教育効果の確認、実践（椋山女学園大学 石原久代委員）
  - ・マルチデバイス対応型LMSによる教育改善実践事例

の2件を候補とするが、被服学教育における教育改善モデル【1】の見直し提案についても検討対象とする。

美術・デザイングループの話題提供候補：

- ① ICTを活用した教育改善の実践事例（東京家政大学 有馬十三郎委員）
  - ・「学生作品情報システム」は稼働中のものであり、学生自身や学生同士による授業改善や、学生作品を多数の教員で情報共有することによる評価の議論にも繋がると思われる。

話題提供候補は、今回出されたものと5年前にまとめた教育改善モデルについても検討し、次回の合同会議で決定する。

### 3. 意見交換のテーマ検討

検討における主な意見：

- ・話題提供候補として挙げたのは主に授業改善だが、重要な学修到達度の評価や質保証についてもテーマにとりあげるべきではないか。
- ・授業改善についても、教員の側だけではなく学生の視点での意見交流が欲しい。
- ・学生を参加させ、教員が取り組んでいる改善努力が学生にどう見えるのか、学生が教員と意見交流する場となることが望ましい。
- ・知識だけでなく、学生の人間的な能力の成長を可視化検証することが重要であるが困難。
- ・私情協から発表する「ICTによる外部評価試験システムの必要性」については学生が厳しさを認識した上で、大学への要望意見が出ることを期待したい。
- ・社会においても、既存の知と別の概念の知との組み合わせこそが重要であることを学生に理解させなければならない。
- ・学生には、大学間連携による学内だけでは困難な分野との連携や、ネットによる他分野の教員との学びの場を紹介していくこと等が重要であり、学生のために教員は何をしてあげられるかの視点が必要。
- ・対話集会には学生や社会人学生にも参加してほしい。

次回第2回合同会議では、以上の意見を踏まえ検討を行うこととなった。

### 4. 対話集会の開催日時、場所についてほか

対話集会は12月の土日、会場は大妻女子大学を予定していることを説明。

**対話集会は12月17日(日)14時～17時30分(委員事前打合せは13時)大妻女子大学開催、第2回合同会議は10月8日(日)17時～19時、私情協にて開催することとなった。**